

会議の概要

平成 29 年度 第 9 回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日時：平成 30 年 2 月 26 日（月） 18:30～20:30

場所：大玉村農村環境改善センター 2 階 農事研修室

（進行…事務局）

1 開会の言葉（進行）

2 教育長あいさつ

大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

- ・今日は本年度最後の CS 委員会となる。CS 委員さんのお知恵とお力で、地域とともに歩む学校づくりに確実に進んでくれたことに感謝と御礼を申し上げる。
- ・平成 23 年度に大玉村が CS を導入して、4 年間の指定をしたのが第 1 期であった。平成 27 年度より第 2 期となり、平成 29 年度からは地域の方に会長に就いていただいたことで、地域に根ざした CS という意味が大きくなってきたように思う。
- ・おおたま学園、CS 委員会、地域学校協働本部などが、縦軸と横軸となつてうまく連動した時に、よりよい大玉の教育ができあがっていく。今年度の反省を次年度に生かしていただければと思っている。
- ・来年は、10 年に一度の学習指導要領の改訂があり、教育課程が変わってくる。中身としては、地域とともに歩む学校・幼稚園という内容になってくる。教育委員会としても、そういった施策を交えながらやっていくので、皆様からもたくさんのご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。

3 会長あいさつ

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会 会長 伊藤 和弥

- ・今日は来年度の学校運営についての承認という重要な議題が控えている。今年度の CS 委員会では、熟議する時間がなかなか取れず、話を聞いているだけという回も多かったので、来年以降の CS 委員会の運営方法についての案を考えている。皆様からもいろいろご意見を聞きながら進めていきたいと思っている。
- ・先日の教育フォーラムでも大変お世話になり、ありがとうございました。小グループでの熟議の中で出たご意見からも新しい視点での提案が出されていて、大変参考になった。今日の会議は、熟議の時間は取れないが、皆様お一人お一人の思いを丁寧にお聞きしながら進めていきたいと思っているので、どうぞよろしく。

教育長退室

4 諸連絡 本日の日程・内容について

事務局

5 協議（座長 CS 副会長 矢吹吉信）

（1）福島県学力調査の結果について

① 調査の結果の概要一括説明（事務局より）

- ・中学 2 年生、小学 5 年生で実施され、教科は小学校が国語・算数、中学校は国語・数学・理科・英語で、この他意識調査が行われた。
- ・次年度の対応策としては以下のことが挙げられる。
- ・学びを支える学習基盤作り。学習に集中できる学級作り。

- ・主体的、対話的な深い学びの実現。具体的には、子どもたちへの問いを工夫することを心がけ、子どもが説明したり、発言したりする場面を授業の中で作る。
- ・学校・家庭・地域の連携の強化。学習のてびき、県で出した家庭学習スタンダードなどの活用。ボランティアの方の参画をさらに推進する。
- ・メディアコントロールの必要性。メディアとの接触時間をできるだけ抑えて時間を有効活用していく。

② 質疑・意見交換 ※別紙参照（終了後回収）

（座長）学力は全体的に見ると小学校、中学校ともに向上しているという結果で、先生方のご努力がこのような結果につながっていると感じる。

（２）平成３０年度各校園の経営・運営の方針等について

① 学校関係者評価委員会について（学校関係者評価委員長より）

○ 大山幼稚園

- ・子どもたちがのびのびと積極的にいろいろなことにトライしている姿が見受けられた。
- ・先生方同士の情報交換、きめ細かい指導のための情報の共有化が図られていて大変良い。

○ 大山小学校

- ・授業参観では３年生の授業を見させていただいたが、楽しそうに授業を受けていたのが印象的だった。アンケートも見やすくわかりやすかった。子どもたち、先生方、保護者との関係が良好であることがわかった。
- ・学習面においては自分から進んで学習に向かう体制が少し不十分のように見受けられる。家庭と連携しながら改善に取り組んでいただきたい。
- ・読書活動については、家庭と連携し小さい頃からの習慣付けが大事である。
- ・アスリートクラブや合唱などの課外活動では好成績を収めているが、休日や夏休みの活動が多いので先生方の負担にならないように続けてほしい。
- ・全体的には良好というまとめとした。

○ 玉井幼稚園

- ・子どもが遊びに対して自分から、大変やる気のある様子を見せてくれていた。
- ・自ら考えるということでは、先生方が子どもに応じた言葉かけをして下さっているため成長がみられている。
- ・読み聞かせについては家庭と連携を取りながらこれからも続けていってほしい。また、母親だけに負担がかからないよう、父親にも呼びかけることも必要である。
- ・他の幼稚園や小学校、地域の方との交流が多面的に行われたようである。体験の広がりによって心豊かな子どもの育成につながったと思う。
- ・早寝早起き朝ご飯も定着しつつある印象を受けた。
- ・食育の推進についても保護者への言葉かけも大切。
- ・先生によって指導の差が生じないように、職員間の共通理解を深めていただいて、日々保育についての考えを出し合い実施して、また、その反省をもとに子どもたちの成長につながるような実践をお願いしたい。

○ 玉井小学校

- ・先生方が校内グループを作り研修を行い、授業研究されていた。
- ・学校と家庭が連携しあって家庭学習の継続的效果が生まれるようお願いした。
- ・自分のことを考えるだけでなく、人の気持ちやふるさとを大切に思う気持ちを、先生方や保護者や地域住民みんなで共有できる教育をお願いしたい。
- ・あいさつについては全児童よくできていた。
- ・体力低下や生活習慣の乱れなどから、生活面での不安要素がみられる。自己管理能力を活用するなどして自分自身を管理できるような工夫をお願いしたい。
- ・学校教育だけではよりよい教育ができないことから、家庭との連携、協力が今後の

課題であるという意見があった。

○ 大玉中学校

- ・生徒たちがみんな気持ちよくあいさつしてくれて、生徒たちの素直さを感じた。
- ・先生方が担当外教科の研修をされていて、スキルアップされている点に感心した。
- ・学習面だけでなく、部活動も外部コーチをお願いするなど先生方の負担を減らし、なおかつ子どもたちが専門的な指導が受けられるよう期待し、各大会での活躍を見守っていききたい。
- ・来年度よりタブレットを使った授業が行われるということで、県内でもトップクラスの授業を受けられるのはとても素晴らしいことである。
- ・学校のホームページもほぼ毎日更新されていて、家族に中学生がいない者でも学校の様子を知ることができて良い。

② 平成30年度各校園の経営・運営の方針説明（各校・園より）

【資料：各校・園 平成30年度学校運営の方針（学校運営ビジョン）】

○ 大山幼稚園

- ・教育目標は大山小学校と同じものとなっている。
- ・自ら考えて行動できる力をつけるために、子どもが興味関心を持つような環境作り。
- ・自分の思いが優先し、やりとりが上手くできないことがある。そのため、話すだけでなく、相手の話も興味関心を持って聞き、伝えあう力を育てていきたい。
- ・社会性を学ぶ場の設定として、3歳児はまずは一人遊びから始まり、先生と関わり、そして、友達へと目が向き一緒に遊ぶというように段階を踏んで育てていきたい。
- ・初めての集団生活で、いろいろな友達との出会いがある。友達や自分のよさに気付く、違いを認め合う保育を実践していく。
- ・自然体験などを充実させていく。
- ・信頼関係の構築、安全教育、危険回避能力の獲得に努める。
- ・学年によって遊び方も違うので、遊び場所の確保や楽しい運動遊びの工夫をする。
- ・基本的生活習慣の確立。家庭の事情にも寄り添いながら、しっかりと進めていく。

○ 大山小学校

- ・教育目標は「めざせ！夢に向かってがんばる子」としている。
- ・教育目標の具現化に向けて、具体目標を設定し、それに対する実践内容を提示している。実践内容については月ごとに評価しながら取り組みの改善に生かしていく。
- ・家庭学習スタンダード、学習のてびきを活用しながら普段の授業を見直し、授業で身につけさせる内容をはっきりさせ、目当てに沿ったまとめや振り返りをしっかりと行う。
- ・授業については、さらに児童の思考を深める発問の工夫、相手を意識して聞く、話す、書く活動の効果的な位置付け、自ら課題解決する学習体験の積み重ねを充実させる。
- ・自他のよさを認め合うことを重点に置いて学級経営の充実を図る。
- ・人権に配慮した授業の展開。
- ・縦割り班活動などの異学年交流を通してよりよい人間関係を築こうとする自主的な態度の育成に努める。
- ・地域の方にもお世話になりながら、地域の素材を生かした地域活動、体験活動をさらに充実したものにして、身近な社会や地元との関わりに気付かせる。
- ・気持ちの良いあいさつや返事、会話を含めてコミュニケーションの充実を図る。
- ・業間を利用した教科体育以外の体力作りも推進していく。
- ・自己管理能力が身につくように児童、家庭への個別の働きかけをして、基本的生活習慣の形成のための継続した指導をしていく。
- ・安全指導については課題をはっきりと持って、危険予知能力・危険回避能力がさらに身につくように具体的に指導したい。
- ・おおたま学園との連携、保護者、地域、各団体との連携・協働については、学校教育のあらゆる部分において関連させながら、村内の幼稚園、中学校とも足並みを揃えて効果的な運用をしていきたい。

○ 玉井幼稚園

- ・教育目標は今年度と同じものにし、継続して進めていく。
- ・本校の子どもたちは素直で明るく元気があり、やる気もあってという良い面がたくさんある一方で、課題として二極化している点がある。
- ・幼稚園も小学校も「玉っ子みんなでチャレンジ」を合言葉に、自分から進んで挑戦していくということを進めてきた。挑戦するとは、自分に見合った目標を立て、きちんと振り返りを行い、次の目標を立てることができる、というようなことを幼稚園児なりにできるように指導していきたい。
- ・「みんな元気！玉っ子自己マネジメント力（RVPDCA）の育成」。小学校も同じものを設定し、自分をマネジメントする力を付けていくための取り組みをする。
- ・自ら考え、進んで行動できる子どもに育てるために、先生が子どもに指示しやらせるのではなく、子どもに考えさせるよう努めている。
- ・葛藤体験を通して相手の気持ちを考える場面の工夫や豊かな体験活動の充実を図る。
- ・たくましい子どもの育成については、最近の小学校低学年の子どもたちは、距離感を計れないためのケガというのがたいへん増えている。原因として、幼児期の遊びにあると考え、遊びの内容の中で、いろいろな動きができるよう工夫していき
- ・幼稚園の指導をうまく機能させていくためには、それぞれの学級で起こったこと、悩んだことを共有して、職員間で話し合い、お互いにアドバイスしながら次の日の保育に役立てていくというマネジメントを次年度も継続していく。

○ 玉井小学校

- ・教育目標については幼稚園と同じ。
- ・教育の方向性について、学校と家庭が同じ方向を向くために、本校の今年の漢字の募集において、家族で話し合って候補をあげてもらった。平成 29 年度を振り返っての漢字ではなく、平成 30 年度に向かってという視点で考えていただき、最終的には P T A 役員に選考していただいた。そして選ばれた漢字が「挑」である。挑んだ結果、成長に結びつけていくためには学校のマネジメント力がカギであると思っている。
- ・自ら学ぶ子どもについては、自分で選んで自分で決めて進められる学習、また見通しを立てたり、振り返ったりする学習をさせたい。
- ・思考力、判断力、表現力については、特に国語科の「聞くこと、話すこと」を重点に指導を行っていききたい。
- ・学習習慣の確立については、保護者アンケートの結果からもわかるように、保護者も不安を抱えている。そのため、家庭のことは家庭でというのではなく、学校でも一緒に考えて家庭学習スタンダードも活用しながら進めていききたい。
- ・次年度は「玉っ子算数教室」という取り組みを計画している。週 1 回 15 分程度だが、自分で学習を進めていくための取り組みである。
- ・ふるさとにおける体験活動の充実では、総合的な学習の内容となるが、大玉のこと、福島のことをふまえて学習を進めていく。
- ・たくましい子どもについての重点実践事項では「運動身体づくりプログラム」の継続的实践、放射線教育の系統的な指導をしていく。
- ・新学習指導要領では体育の授業でも「伝える力」が求められている。友達や先生と関わりながら、自己の課題解決に向かう力を育てることと解釈して指導に当たる。健康的な生活習慣に関しても自己管理能力の育成という視点での指導が必要になってくる。

○ 大玉中学校

- ・学校経営・運営ビジョンの作成及び現在進めている教育課程の編成に関して、基本的な考え方として次の 5 つの点に重点をおいて進めた。
- ・一つは村の学校教育指導の重点との関連を図る。
- ・二つ目は新しい学習指導要領の趣旨を反映する。特に変化の激しい社会を生き抜く子どもたちの資質能力の育成をポイントにしている。
- ・3 つ目は教職員の参画意識を高める。そのために一人一人の教職員の意見を吸い上げるとともに部会で検討してもらった内容を入れ込む。

- ・4点目は本校で今年度実施された第三者評価、また、学校関係者評価で出された意見を経営・運営ビジョンに反映させていく。
- ・5点目は「社会に開かれた教育課程」の実現が求められているため、家庭や地域との連携を強く打ち出す。
- ・教育目標は次年度も継続。
- ・本校の生徒はまじめで素直だが、少し受け身であるという課題があることから、目指す生徒の姿を「学ぶ習慣を身に付け、主体的に学習に取り組む生徒」と少し変更を加えた。
- ・「強い意志」というのが村の重点事項に入っているため、強い意志でやり抜く生徒という点を強調した。
- ・「健康・安全に心がけ、活力ある生活を送ることができる生徒」の点では、昨年度は「節度ある」となっていたのを「活力」という言葉に変更させていただいた。
- ・知育の部分では、特に資質能力の育成、主体的・対話的で深い学びの実現や、教科横断的な学習が求められている。生徒の学びの質を向上させることが重要であると考えている。
- ・家庭学習の質、授業の質や教える教師の指導力を向上させるのも、子どもたちの資質能力の育成には非常に重要になってくる。
- ・徳育では、協働的な集団活動を推進するためには家庭や地域との連携、体験活動の充実が欠かせないので、特に強く打ち出している。
- ・生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくためには、自己指導能力を高めることが必要である。
- ・現代的な諸課題に対応するために求められる資質能力の一つとして「新たな価値を生み出す豊かな創造性」というのが挙げられる。その育成には道德教育の充実が不可欠であると考え。そのため中学校では次々年度から実施となる特別の教科道德を本校においては先行実施する。
- ・今年度本校では自転車による自損事故が何件か発生した。また、皆様ご存じのようにJアラートの発動もあり、新たな課題が生じている。安全教育の工夫と充実が求められている。
- ・次年度は学校と地域が相互補完的に連携協働するシステムの構築を目指すため「社会に開かれた教育課程」を実現し、地域と共に歩む学校づくりに努めていく。

③ 意見交換 → 承認

○ 大山幼稚園

- ・先日の参観では先生方の努力されている姿を感じ取ることができた。来年から3歳児への対応も加わるので、先生方のメンタル面のケアも大切だと思う。

○ 玉井幼稚園

- ・先ほど二極化しているというお話がでていたが、全て揃っていなくても、画一化していくのではなく、それぞれの幼児の姿があってもいいかなと思う。
- ・幼稚園と小学校の連携が随所に見られた。先生方が新たなねらいや情報を共有しながら、研究し実践されている様子が見えた。

○ 大山小学校

- ・家庭学習や読書活動、基本的生活習慣の確立などは、家庭での指導が最も大切なので、保護者としても学校での取り組みを理解し協力していきたいと思う。

○ 玉井小学校

- ・子どもたちが非常に落ち着いて勉強しているという印象を受けた。先生方が子ども一人一人の実情に添った指導をしてくださっているということが分かった。

○ 大玉中学校

- ・校長先生が、教職員はプロでなければならない。そのために、各教科を超えて、先生方が互いに研修し合って教育力の向上を目指していきたいとのことだったが、それを実践されているのがすばらしいと思った。また、現在、いじめが無いということで、

それは先生方が連携して生徒指導の問題を見つけ、即解決するという素早い対応によるものと思う。

- ・地域の農業を継承していくために、部活に農業を入れてほしいという意見が子どもから出ているという話があった。そういった取り組みによって、農業に目覚める子どもがいたら素晴らしいことだと思う。

（３）第９回教育フォーラム反省

① アンケート集計結果、フリートークでの意見から

（コーディネーターより）

- ・パネルディスカッション・フリートークについて「よい」「とてもよい」という割合が 90 %から 100%という結果だった。また、全てを通して「よいフォーラムだった」という結果が出ている。
- ・ただ、パネルディスカッションでは、パネリストの方から素晴らしい意見が出ていたので、もっと時間をかければ、いろいろなご意見が聞けたのではないかという意見があった。
- ・フリートークについては、グループの人数も適当であり、素直な意見が非常にたくさん出されていたというご意見だった。
- ・テーマが大きかったのでもう少ししぼったほうが良かったかという意見もあった。
- ・参加者の 40%が教職員の方だった。大変お忙しい中参加していただきありがとうございました一方、保護者や地域住民の方に参加していただきたかったという意見もあった。
- ・実施時期について、暖かい時に変更した方がいいのではないか、月末はさけたほうがいい、などがあったので来年の計画作成で参考にしていただきたい。

（ディレクターより）

- ・フリートークのテーマとして、「地域ぐるみ（家庭・学校・地域）ですべきこと」とうたっていたためか、それぞれに何をすべきかという視点で話し合いを進めたグループが多かったようである。
- ・家庭でできることとして、まずはあいさつが大切であるという意見が多かった。また、生活習慣や家庭学習習慣の定着や地域とのかかわり方についてのご意見や、親（家庭）の心構えとしてのご意見を出してくださったグループもあった。
- ・学校でできることとしては、パネルディスカッションでの提言から、学校施設を地域に開放することについて言及しているグループが多かった。
- ・教員の参加者が多かったこともあり、先生方からのご意見と思われるものも多かった。
- ・地域でできることとしては、地域の中での関わり、大人も子どもも一緒にできるイベント等への参加やあいさつが大切であるというご意見が出ていた。
- ・パネルディスカッションでの提言を受けて、農業体験の大切さに関する意見も多数出ていたようである。
- ・その他、さまざまな視点からのご意見を多数出していただいている。

② 意見交換（次年度以降の内容・運営について）

（委員）フリートークはあまりにも盛り上がって時間が足りなかったのもっと時間を取って、もっと幅を広げた話し合いにしてもいいのではないかと思った。今後 SNS 利用者がますます増えていく中で、SNS を媒体としたいじめに発展する危険性がある。我々もそういったものへの対応を迫られているなど感じている。

（４）平成３０年度コミュニティ・スクール委員会運営について

① 平成２９年度おおたま学園 CS 委員会を振り返って（指導主事より）

- ・「学校関係者評価」「オープンスクール・学校運営協議会」についての成果としては、綿密な計画の下実施され、各校園での取り組みもよく分かったというご意見をいただいている。
- ・その他、CS 委員会自体の協議のあり方について、思いは持っていてもなかなか発言できないこともあったという反省が出ている。皆さんで意見交換しながら、改善を加えていきたい。

② 基本方針（案）年間計画（案）説明

- オープンスクール（おおたま学園主催の授業研究会）に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルが有効に機能するようにする。
- 第10回目となる教育フォーラムは、保護者、村民の方々が年に1回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができるだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。
 なお、役員会が概要を企画し、内容・方法については、CS委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう運営方法を工夫する。
- 実行委員会が中心となり企画・運営する村民スポーツ・フェスタに参画し、ねらいの達成に寄与する。

平成29年度の活動実績と平成30年度の計画（案）

平成29年度（実績）			平成30年度（案）
月	日	会議・主な活動	会議・主な活動
5	11	第1回役員会 ・第1回CS委員会運営・内容等検討 （組織編制、方針・年間活動計画等）	4/（）第1回役員会 ・第1回CS委員会運営・内容等検討
5	17	第1回CS委員会 ・委員任命・方針・年間計画 ・各校園が重点的に取り組むこと ・地域学校協働本部事業に係る研修 ・お・オ・フェスタに係るグループ協議	5/（）第1回CS委員会 ・方針・年間計画（CS委員会運営・内容等）・各校園が重点的に取り組むこと・課題研修 ・教育フォーラムに係る協議
6	28	第2回CS委員会（玉井幼・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施	6/26（火）第2回CS委員会（大山幼・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施
7	10	第3回CS委員会 （兼 教員・CS委員・関係協力団体合同会議） ・お・オ・フェスタ各部会別協議	7/（）第3回CS委員会 各部会（教育フォーラム、地域学校協働本部、学校関係者評価、広報活動等）、全体会
8	34	全国CS連絡協議会・研究大会（岐阜県岐阜市） 教育長、地域CN、地域連携担当教員、指導主事参加	
8	28	コミュニティ・スクールに関するシンポジウム（福島市） 校長、教育部長、指導主事、社会教育係長、地域CN、CSディレクター参加	
9	8	第4回CS委員会（大玉中学校運営協議会）	9/7（金）第4回CS委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施
9 10	30 13	おおたま・オートム・フェスタ（小中）運営 ・協力 おおたま・オートム・フェスタ（幼）運営・協力	9/9（日）村民スポーツ・フェスタ運営・参画（CS委員全員） ※予備日9/16（日）
10	10	第2回役員会 ・第9回教育フォーラムについて	9/（）第2回役員会
10	16	第5回CS委員会 ・第9回教育フォーラムについて ・全国学テ調査結果	10/（）第5回CS委員会 各部会（教育フォーラム、地域学校協働本部、学校関係者評価、広報活動等）、全体会 10/25（木）第6回CS委員会（玉

			井幼・小学校運営協議会) ※オープンスクール実施
1 1	7	地域とともにある学校づくり推進フォーラム (岩手会場) CS 会長、地域 CN、地域連携担当 教員、CS ディレクター、地域学校協働本部副 会長、社会教育係主査参加 第 6 回 CS 委員会 (大山幼・小学校運営協議会)	11/ () 第 7 回 CS 委員会 各 部 会 (教育フォーラム、地域 学校協働本部、学校関係者評価、 広報活動等)、全体会
1 2	8	地域とともにある学校づくり推進フォーラム (東京会場) 教育長、CS 会長、協働学校協 働本部副会長、指導主事参加 第 7 回 CS 委員会 ・お・オ・フェスタのアンケート結果について ・第 9 回教育フォーラムについて	12/ () 第 8 回 CS 委員会 各 部 会 (教育フォーラム、地域 学校協働本部、学校関係者評価、 広報活動等)、全体会
1	1 6	第 8 回 CS 委員会 ・第 9 回教育フォーラムについて ・H 3 0 計画に向けて	1/ () 第 10 回教育フォーラム
1 月 ～ 2 月	2 9	第 9 回教育フォーラム 各校園ごとに学校関係者評価実施 大玉中… 2/7 玉井小… 2/2 玉井幼… 2/9 大山幼… 2/8 大山小… 2/8	1 月～2 月学校関係者評価実施 各校園委嘱の学校関係者評価 委員が行う。各校園毎に日時 設定
2	2 6	第 9 回 CS 委員会 ・フォーラム反省 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・H29 反省と H30 計画 ・県学力テスト結果	2/ () 第 9 回 CS 委員会 ・教育フォーラム反省 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・H30 反省・H31 計画 ・県学力テスト結果

③ 意見交換

(座長) 3、5、8 回の CS 委員会のもち方について会長より説明の補足をお願いします。

(会長) 最近の CS 委員会では熟議の時間がなかなか取れず、皆さんの自由闊達な意見が出にくくなっていると感じている。CS 委員会で取り扱う協議の内容が多岐にわたるようになり、事務局から報告を受け承認する進め方が主になっていると思う。

今は CS 委員会として関わるべき内容が明確になってきたので、部会を作って、委員がそれぞれの議題を担当し、年間を通して話し合っていくことはできないだろうかと考えている。年に 9 回の会議の内、初回と最終回はいろいろな報告事項もあり、熟議の時間は取ることはできない。また、年に 3 回の各学校運営協議会やオープンスクールも大切にしたい。

残りの 4 回をもっと有効に運営していくために、部会を立ち上げるという方法はどうかという提案をさせていただいた。

CS 委員会のそもそもの目的は何かと考えたときに、みんなでいろいろな考えを出し合い、活動に対して創造的な提言ができるような会が本来の CS 委員会ではないだろうかと考えている。

(委員) CS 委員会としてやることも多いので、会議の内容が窮屈になっている現実是否めない。でも熟議という形を取れば、みんなの意見が出しやすくなると思う。

(座長) 今会長から出された提案については、役員会を通して協議決定させていただくということで進めてまいりたい。

(6) その他

(学校側より) おおたま・オータム・フェスタの件について、30 年度はスポーツ・フェスタとして開催となるため、年間計画の中には入っていないが、31 年度にまた、実施の計画があるのであれば、次年度の教育課程に盛り込んでいかなければならない。しかるべ

き時期に協議するべきではないか。
(座長) 今の件について、役員会を通してご検討いただくようお願いする。

6 今年度の総括 (CS 会長 伊藤和弥)

一年間お疲れ様でした。皆様のご協力もあり、いろいろな事業に取り組んできたが、課題も見えてきたのかなと思う。来年度に向けての目標としては、「楽しく」をモットーにと思っている。CS 委員の皆様にはせっかく集まっていたくのだから、この時間が有意義に過ごせるようにしていきたい。

7 その他

- CS 便りの発行について

8 閉会の言葉 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 後藤みづほ

最後の CS 委員会、たくさんの議題があり、中身の濃い話があった。皆様一年間本当にお世話になりました。新しい方々ともなじめていろんな事を教えて頂いた。来年度もまた元気に頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。



1年間、大変お世話になりました。今後も学校と地域をつなぐ架け橋となれるよう努めてまいりたいと思います。次年度もよろしくお願いします。